

## 三郷村バイオマスタウン構想

1. 提出日 平成17年5月24日

2. 提出者 長野県三郷村

所 属 農林商工課 林業活性化対策室

役職名 林業活性化対策室長

氏 名 保崎健文

住 所 長野県南安曇郡三郷村大字明盛4810-1

(郵便番号399-8192)

TEL 0263-77-3111(代表) 内線 1231

FAX 0263-77-6060

e-mail norinshoko@misato.or.jp

3. 対象地域 長野県三郷村

4. 構想の実施主体

三郷村、三郷村農業振興公社、あづみ森林組合、あづみ農協、(株)三郷ベジタブル、  
その他関連業界団体

5. 地域の現状

経済的特色：

本村の農業生産額は4,300百万円(平成15年度)製造品出荷額は22,439百万円(平成15年度)である。しかし、長引く不況の影響で村内の事業所数や製造品出荷額は減少傾向にある。

農林業においては、農家数(1,384世帯)林家数(103世帯)であり、年々減少傾向にある。これは、農産物の自由化や価格低迷、農林業をめぐる著しい環境変化、後継者の2次産業、3次産業への流出が主な理由に挙げられる。

しかし、農産物の流通販売の工夫や安全で旬の食材、果実、食料提供などの新たな付加価値に着目した農業の振興、販売促進努力の成果が実り、新規就農者が増えつつあり、農家数の減少傾向には歯止めがかかっている。

本村では、平成10年度に、地域に賦存する諸資源を活用し、グリーンツーリズムの振興等農業関連の新たな産業おこしにより、地域農産物の消費拡大、販売の促進及び拡大、多様な就業所得機会を創出する目的で宿泊温泉施設の三郷村農林漁業体験実習館「ファインビュー室山」を建設した。平成11年度に、農畜産物加工直売施設「榆の郷三郷サラダ市」を建設し、農畜産物の加工及び販売による消費者との交流を

通じた農業の振興、地域活性化を図っている。また、平成12年度に、三郷村堆肥センター「ユーキピアみさと」を建設し、畜産農家の経営継続のための条件整備を行い、同時に、堆肥を資源として活用しながらの循環型農業を目指し、同時に安全で付加価値の高い農畜産物の生産を通じて、本村を高付加価値農畜産品の産地とすることにより、畜産の振興及び農業の振興を図ってきている。

主な農業振興策は、りんご栽培の促進と販売流通ルートの開拓、トマト施設栽培(4ha)による新規農業事業への参入(平成16年度から)である。

表1 三郷村における主要農産物の現況

平成15年度

区分	計	米	果実	乳用牛	豚	その他
作付面積(ha)	1,490	514	467	151		357
飼育頭数(頭)	11,210			720	10,100	390
収穫量(t)	22,685	3,270	11,798	4,143		3,474
農業産出額(千万円)	430	89	183	39	57	62
農業産出額構成比	100.0%	20.7%	42.6%	9.1%	13.2%	14.4%

「長野県農林業市町村別データ」より

#### 社会的特色：

本村は長野県の中心部にあり、松本市から車で北西に約15分のところに位置している。本村は安曇野の豊かな自然環境に抱かれ、古くから多彩な歴史と文化を育んできた。そして、肥沃な大地を活かした農業では、長野県下随一と称えられる稻作と、うまさで全国に知られるりんごを生産してきた。

近年、松本都市圏という立地から、同市のベットタウンとしての住宅機能を高め、めざましい都市化が進んでいる。昔からある豊かな自然と実りをはぐくむ風土を大切にし、その環境を維持しつつ、村民が、共に支えあい、安全でいきいきと躍動できる「美しい田園都市の創造」を基本理念に、「安曇野の美しい田園都市・三郷」を目指している。

#### 『安曇野の美しい田園都市・三郷』のための行動目標

公共・文化複合拠点：多様で魅力的な都市サービス機能の整備・集約を図る。

生産複合拠点：農業生産と自然環境の融合による新たな産業創造を図る。

都市複合拠点：住宅立地の促進、都市サービス施設、産業の集約を図る。

交流拠点：村民、転入者、観光客が日常的な交流できる拠点作り。

農園リゾートふれあい拠点：「室山」「アグリパーク」を緑地、レクリエーション

施設とし、周辺のワイナリー、果樹園、温泉施設等、地場産業を結びつける新しい農村型リゾートふれあい拠点作りを図る。

水源の交流拠点 : 水源の維持、活性化に努める。

グリーンベルト軸 : 多様な生物が生息する空間を大切にし、身近に自然と触れ合える環境作りを進める。

以上のように、豊な自然を背景に、村民と自然環境とのふれあい、新しい農林業に取り組みながら、農林業と新しい産業との融和を図ることを理想としている。

#### 地理的特色

三郷村は長野県中部にあり、松本市から西方へ約 8 km、安曇野のほぼ中央に位置している。(下図) 人口は 17,819 人(男性 8,753 人、女性 9,066 人、平成 16 年 4 月 1 日現在) 世帯数 5,951 戸の村である。土地面積は 4,021ha (40.21 km<sup>2</sup>) 土地形状は、東西に 11.4km、南北に 5.8km と、東西方向に長い形をしている。(下表)

西に北アルプスをいただく雄大な自然のなか、東北方向に緩傾斜した黒沢川扇状地と梓川扇状地とからなる複合扇状地帯で構成され、標高は 570m の水田地帯から 2,051m の山岳に及んでいる。

総土地面積 4,021ha のうち、耕地面積は 1,680ha、林野面積が 1,498ha である。

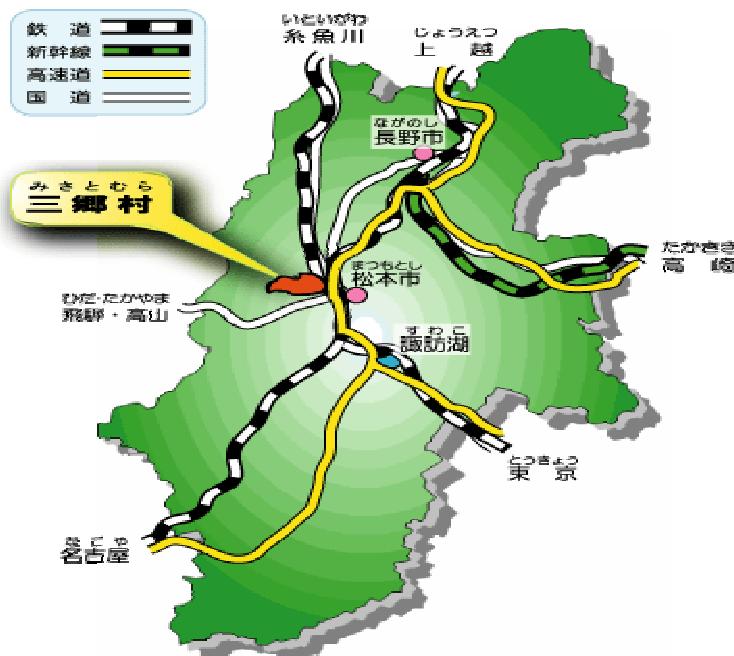


図 1 三郷村の位置

表2 三郷村の耕地面積

総面積	耕 地				森林	宅地	その他	
	田	普通畠	果樹園	牧草地				
4,021	1,680	921	299	452	4	1,498	396	447

表3 三郷村の気温と降水量

気温と降水量 (平成15年)

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高気温(°C)	3.0	5.5	8.8	18.1	23.7	26.0	26.9	29.2	26.6	18.6	14.4	7.8
最低気温(°C)	-6.5	-4.1	-2.5	5.5	10.9	15.6	18.2	19.9	16.6	6.9	5.1	-2.0
平均気温(°C)	-2.0	0.2	2.5	11.4	16.7	20.4	22.0	23.9	20.9	12.2	9.4	2.4
降水量(mm)	83	24	91	110	69	81	127	211	115	50	164	25
日照時間(h)	156.4	148.2	177.1	156.3	183.2	106.9	63.9	115.0	154.5	149.3	94.6	126.7

[ 年間降水量 : 1,150(mm) 年間日照時間 : 1,632.1(h) ]

最高気温：日最高気温の平均値

資料：松本測候所穂高地域観測所

最低気温：日最低気温の平均値

## 行政上の地域指定

## 農業振興地域

## 6. バイオマスタウン形成上の基本的な構想

## (1) 地域のバイオマス利活用方法

本村から発生するバイオマス資源には以下のものがある。

生活活動に伴う生ごみや下水道汚泥

牛及び豚の家畜排せつ物

りんごの剪定枝

製材廃材

間伐材

トマトのツル

稲作及び畑作から出る稻ワラ、穀殻

表4 バイオマスの発生量

	種類	面積、頭数	発生量	潜在賦損 エネルギー 一量	利用可能 エネルギー 一量	エネルギー － 利用可 能率
	(廃棄物系バイオマス)					
	生ごみ	17,819人	784t/年			
	家畜排せつ物	牛：1,110頭 豚：10,100頭	合計 13,892t/年 堆肥化処理 8,467t/年 未処理(39%) 5,425t/年	(MWh) 9,845	(MWh/年) (未処理分) 3,844	39%
	りんごの剪定枝	452ha	1,500t/年	7,850	7,850	100%
	製材廃材		110t/年	432	432	100%
	(未利用バイオマス)					
	間伐材(曲材 木皮)	1,498ha	1,000t/年	5,580	5,580	100%
	トマトのツル	4ha	480t/年	2,230	2,230	100%
	稻わら、もみ殻	1,228ha	5,256t/年	18,340	1,834	10%

表5 バイオマスの発生時期

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考 合計
(廃棄物系バイオマス)													
生ごみ 予想数量(t)	70	70	60	60	80	60	60	60	70	70	64	60	784
家畜排せつ物 予想数量(t)	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,192	1,100	1,100	1,000	1,100	13,892
りんごの剪定枝 予想数量(t)									500	300	300	400	1,500
製材廃材 予想数量(t)	10	10	10	10	8	10	10	10	8	7	7	10	110
(未利用バイオマス)													
間伐材 予想数量(t)	80	80	80	100	100	100	100	120	120	40	40	40	1,000
トマトのツル 予想数量(t)		200			160				120				480
稻わら もみ殻 予想数量(t)						1,500	2,500	1,000	256				5,256
月別合計(t)	1,360	1,560	1,350	1,370	1,548	2,870	3,870	2,382	2,174	1,517	1,411	1,610	23,022

(総量で年間約23,022トンのバイオマス資源が発生する。)

これらのバイオマスを、次のようにして循環利用することを計画している。

- 生ごみ・・・「ユーキピアみさと」に搬入し、堆肥化。堆肥の販売。
- 牛及び豚の家畜糞尿・・・「ユーキピアみさと」に搬入し、堆肥化、残りをメタン発酵
- りんごの剪定枝・・・ガス化し、発生ガスを原料に発電および水素ガスの製造、販売。
- 製材廃材・・・ガス化し、発生ガスを原料に発電および水素ガスの製造、販売。
- 間伐材・・・ガス化し、発生ガスを原料に発電および水素ガスの製造、販売。
- トマトのツル・・・ガス化し、発生ガスを原料に発電および水素ガスの製造、販売。
- 稻ワラ・・・「ユーキピアみさと」に搬入し、堆肥化。堆肥の販売。
- 穀殻・・・「ユーキピアみさと」に搬入し、堆肥化。堆肥の販売。

また、それぞれの生産物の利用法は以下のようである。

- ・堆肥は農地で利用する。
- ・メタン発酵により発生したメタンは、発電又は圧縮天然ガス（CNG）自動車に利用する。
- ・ガス化により発電した電力は、村内温泉施設「ファインビュー室山」で利用する。
- ・ガス化により製造した水素は、燃料電池自動車または水素ガスエンジン自動車、燃料電池ハウス等に利用する。

以上のように、バイオマスの利活用として、堆肥化、メタン発酵、ガス化の3方法を検討している。

家畜排せつ物や稻わら・もみ殻、生ごみは堆肥化し、家畜糞尿の一部をメタン発酵させるものである。メタン発酵により発生したメタンガスは、発電用燃料として利用する方法や、CNG自動車の燃料として利用する方法を想定する。CNG自動車は、現在、普及段階であるが、横須賀市においてメタン発酵したメタンガスを利用してごみ収集車に利用している実績がある。そこで、本村でも生ごみ収集車や公共交通機関にCNG自動車を導入し、化石燃料に頼らず、地域バイオマス資源を利活用していく方法を模索する。

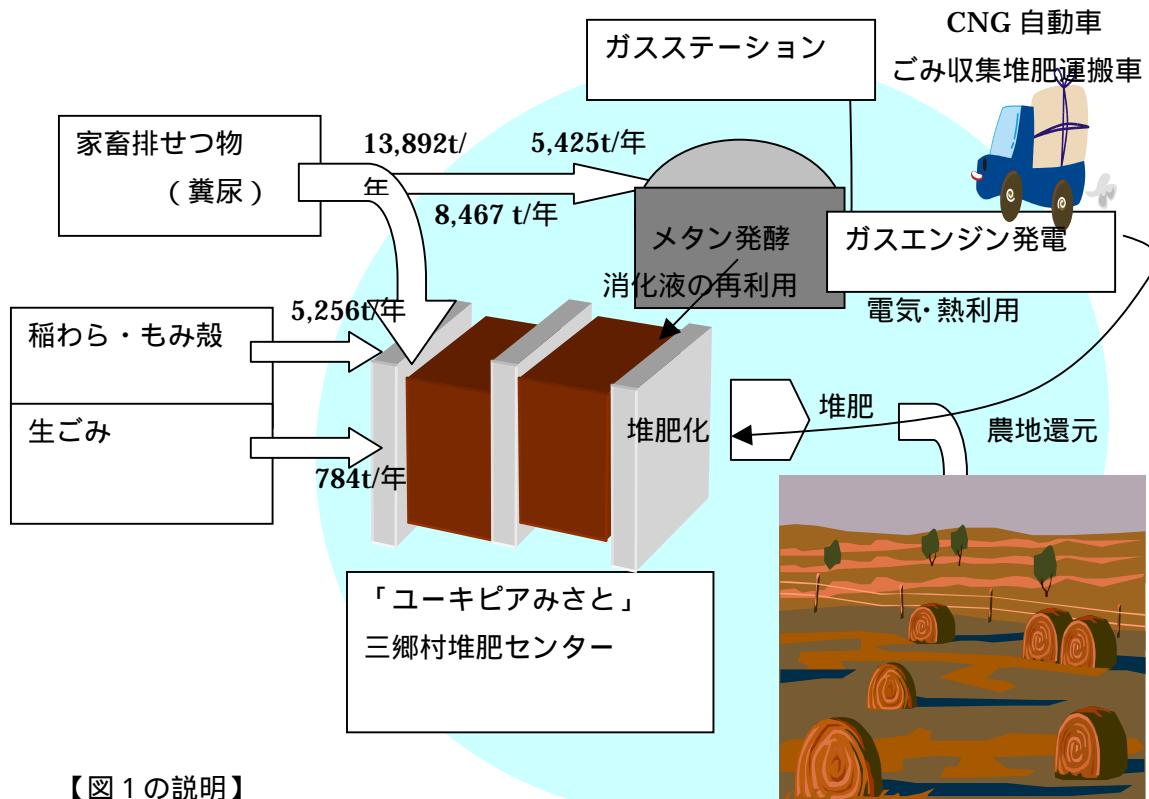
木質系のバイオマス（りんごの剪定枝、間伐材、製材廃材、トマトのツル）は、ガス化し、電力と熱を発生させて村内温泉施設で利用する方法や、水素ガスエンジン自動車や燃料電池自動車、家庭用燃料電池等で利用できクリーンで付加価値の高い水素ガスを生産する。燃料電池は未来の新技術として注目されている。水素ガスエンジンや燃料電池に供給する水素ガスは、現状、石油や石炭、天然ガスから作られているが、化石燃料から水素を製造する以上、二酸化炭素低減には寄与しない。一方、バイオマス資源はカーボンニュートラルとみなされるので、バイオマス資源から水素を製造した場合には、二酸化炭素の排出抑制につながる。

そこで、本村では、地域バイオマス資源を活用し、バイオマス資源から製造する水素を燃料電池に利用することにより、新しい地域資源の活用方法と環境エネルギーの利用方法を模索する。同時に、バイオマス資源の利活用により、燃料電池に関する新しい産業を創造することも期待できる。

以下に、バイオマス利活用のイメージを記した。

### [利活用方法1(家畜排せつ物・稲わら・もみ殻・生ごみ)]

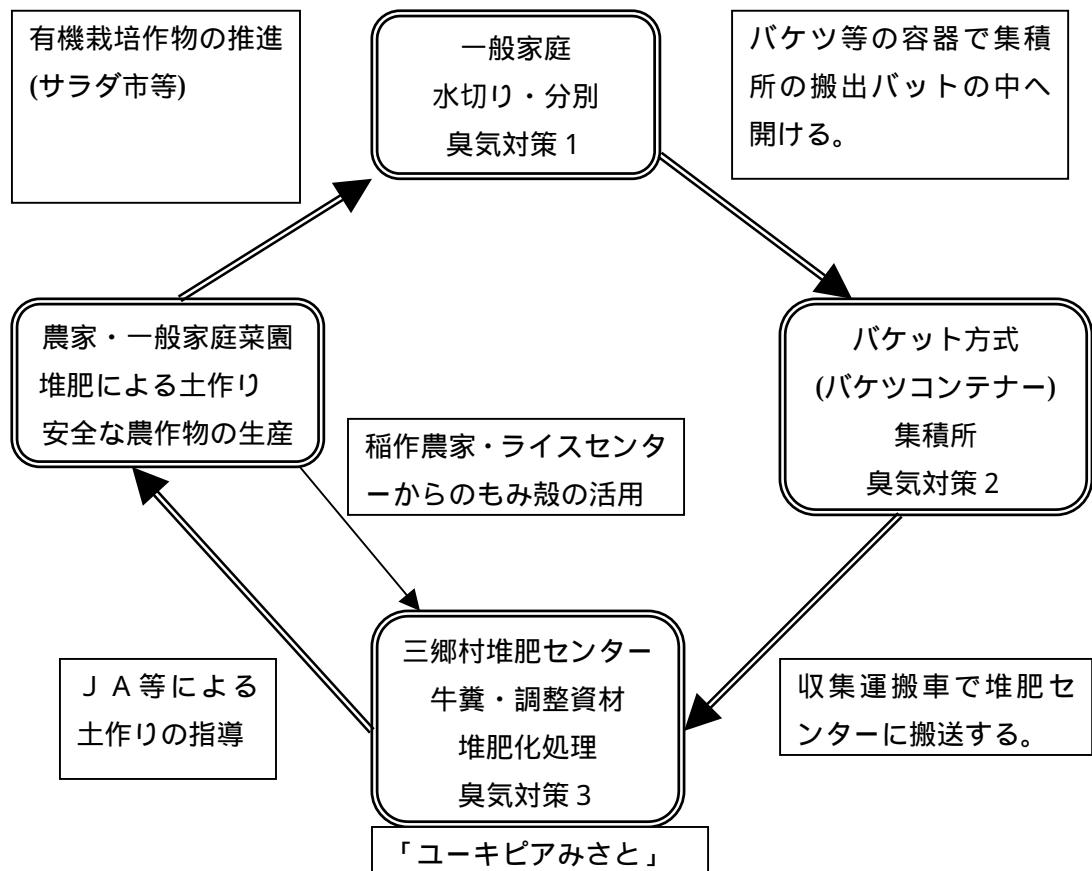
図1 メタン発酵及び堆肥化によるバイオマスの利活用



【図1の説明】

- 家畜排せつ物を各畜産農家が運搬し、「ユキピアみさと」へ持ち込む。
- 稲わら、もみ殻は、各農家が運搬し、「ユキピアみさと」へ持ち込む。
- 生ごみは、各市民がバット方式（バケツコンテナ）集積所に運搬し、そこから、収集運搬車にて「ユキピアみさと」へ搬送する。
- 搬送されたバイオマス資源は、堆肥化処理される。生産した堆肥は地域の田畠や果樹園、一般家庭の菜園等で利用する。
- バイオマス資源の全量を堆肥化しても、全量を循環利用できるとは限らない。残りは、メタン発酵をし、発生したガスから電気・熱を生産し、堆肥化センター内の電力源、熱源として利用する。
- 更に、二酸化炭素排出抑制効果を期待し、CNG自動車を導入し、CNG自動車の燃料源として活用する。

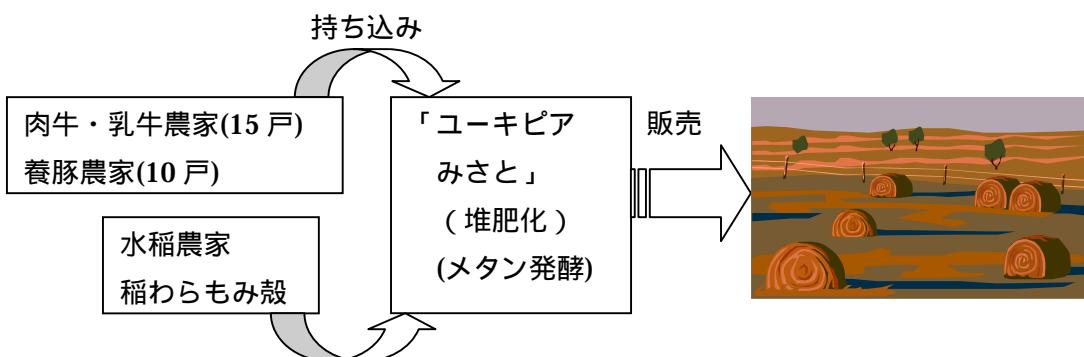
図2 生ごみの収集ルートと利用法



【図2の説明】

生ごみの収集ルートは、一般家庭から集積所に集め、そこから収集運搬車にて三郷村堆肥センター「ユーキピアみさと」へ搬送するルートで生ごみを収集する。製造した堆肥はJAや直接販売を通じて農家や一般家庭へ販売する。

図3 家畜排せつ物と稻わら、もみ殻の収集ルート

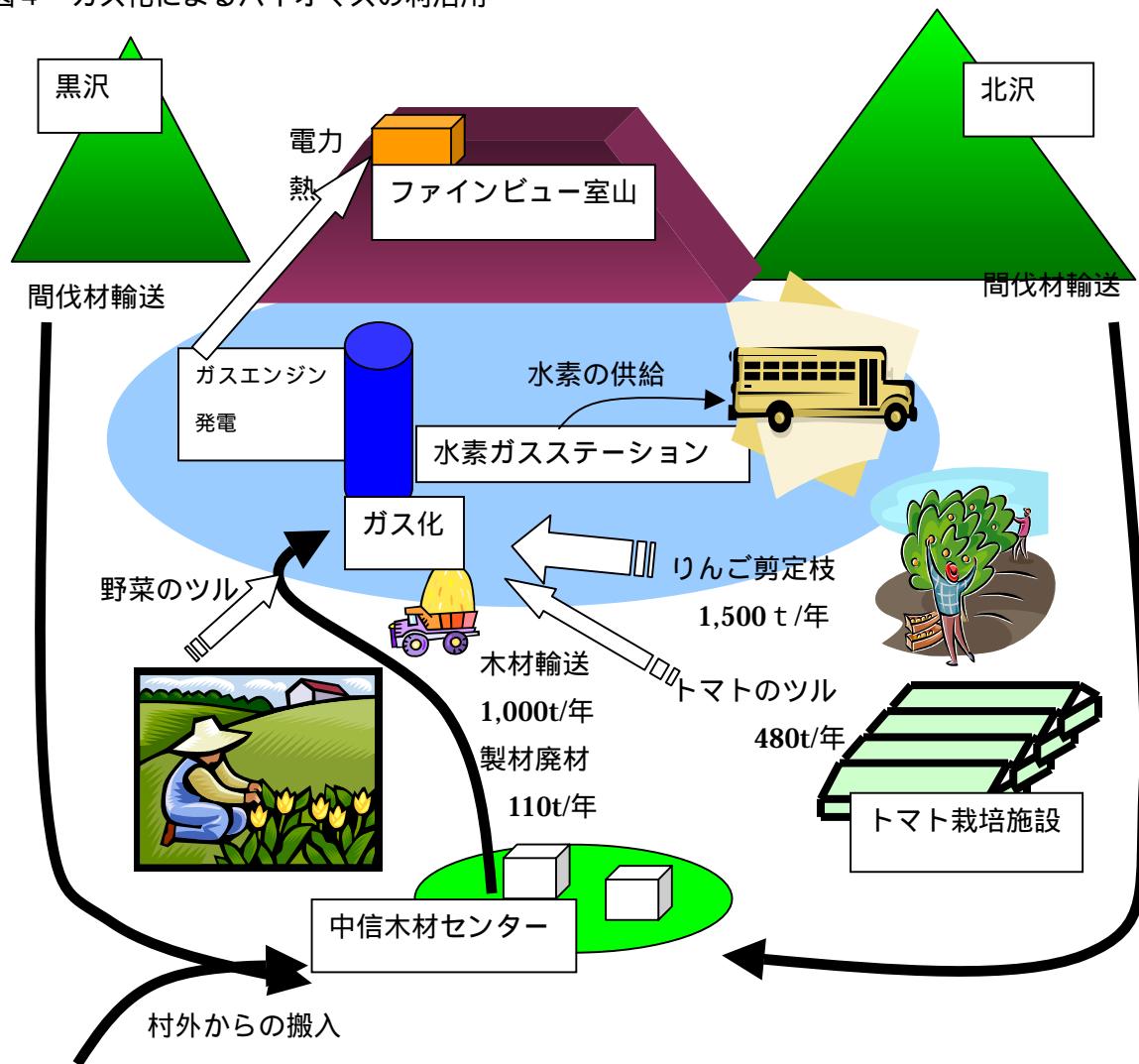


### 【図3説明】

家畜排せつ物や稻わら、もみ殻は各農家から既に本村で稼動している三郷村堆肥センター「ユキピアみさと」へ持ち込み、そこで堆肥化処理、家畜排せつ物の一部はメタン発酵処理をする。

### 【利活用方法2(間伐材その他)】

図4 ガス化によるバイオマスの利活用

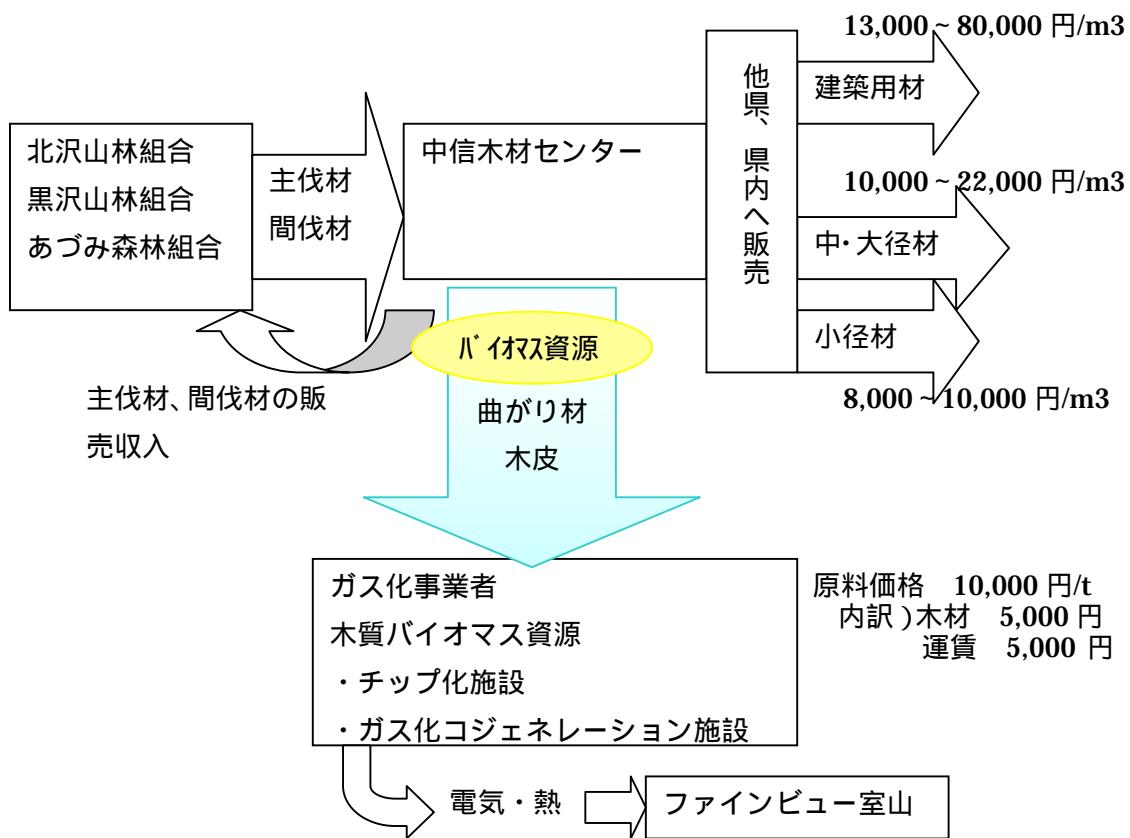


### 【図4の説明】

- 間伐材は、地元輸送業者によって収集運搬し、中信木材センター集約する。
- りんごの剪定枝は、農家によりガス化施設へ持ち込む。
- トマトのツルは、地元輸送業者によって収集運搬し、ガス化施設へ持ち込む。

- 野菜のツル（ジャガイモその他の農業資源）は農家がガス化施設へ持ち込む。
- 収集したバイオマスは、ガス化し、電気と熱を発生させる。
- 発生した電気と熱は、村内温泉宿泊施設「ファインビュー室山」で利用する。
- 更に、農林業と新産業との融和を図るため、発生したガスから水素ガスを分離精製し、水素ガスを生産する。
- 生産した水素ガスは、水素ガスエンジン自動車や燃料電池自動車、家庭用燃料電池等の燃料ガスとして活用する。

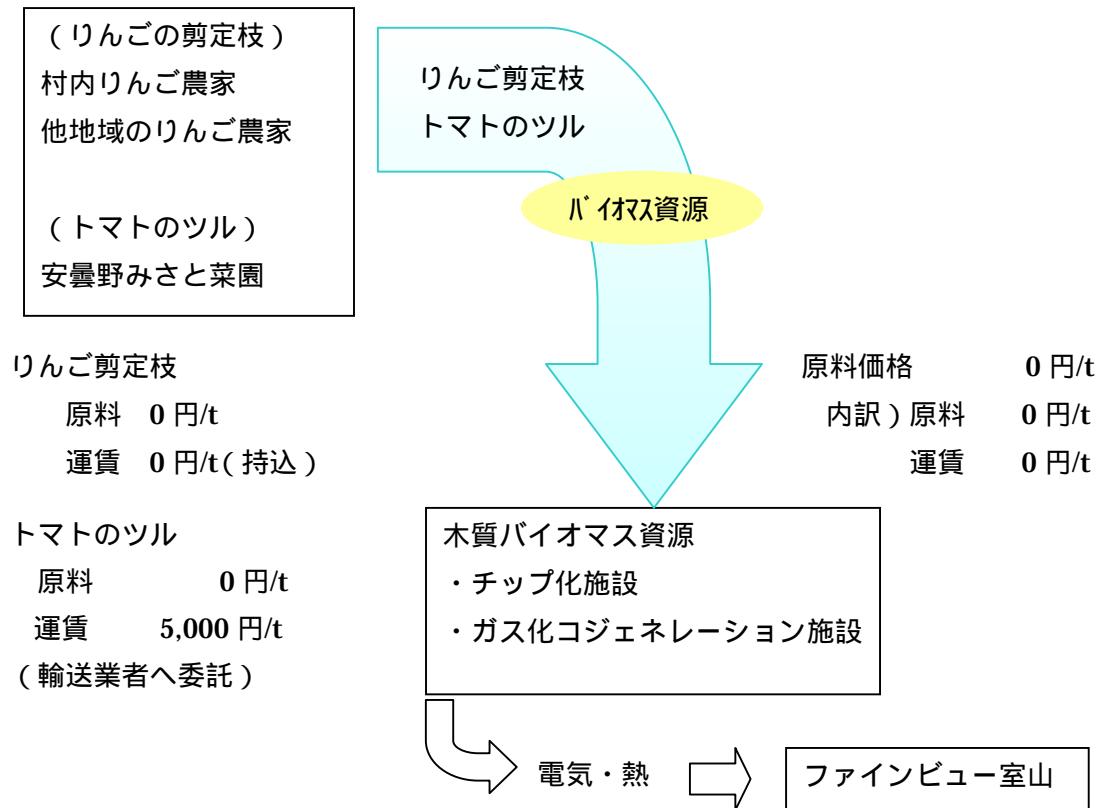
図5 間伐材の供給ルート



#### 【図5の説明】

現在、本村の主伐材、間伐材は、中信木材センターに集められ、そこから更に建築用材、大・中径材、小径材として販売されており、曲がり材もパルプ工場に有価で販売されている。製材時に発生する木皮については、利活用方法がなく、その処理に苦慮している。そこで、本村では曲がり材の一部と木皮を、木質バイオマス資源のガス化プラントへ有価で供給販売する。そのため、中信木材センターでは、木皮を有価で利活用することが可能となり、木質バイオマス資源の効率的な循環利用が可能となる。

図6 りんごの剪定枝、トマトのツルの供給ルート



#### 【図6の説明】

りんごの剪定枝は、りんご農家からガス化事業者へ直接持ち込む。

トマトのツルは、安曇野みさと菜園から輸送業者を通じて、ガス化事業者へ持ち込む。

(その時の輸送運賃は安曇野みさと菜園の負担とする。)

#### (2)バイオマスの利活用推進体制

村全体の取り組みとして推進するため、畜産農家、農家、農協、森林組合、堆肥センター、市民団体、村民、企業、行政、大学など産、官、学で「バイオマスマタウン推進協議会」を構築し、地域にあるバイオマス利活用の検討、推進を図る。

表6 参加者の役割

参加組合、法人、個人	役割分担	備考
三郷村堆肥センター 「ユーキピアみさと」	稻わら、もみ殻、生ごみ 家畜排せつ物の堆肥化、メタン発酵	バイオマスの処理事業者、製品の販売者
畜産農家	家畜排せつ物の運搬	原料の提供者
一般市民	生ごみ搬出（集積所まで）	原料提供、製品購入者
J A	土地作り指導	製品の購入者
黒沢山林組合	森林の主伐間伐、搬出、里山の育成	原料の提供者
北沢山林組合	森林の主伐間伐、搬出、里山の育成	原料の提供者
安曇野みさと菜園	トマトのツルの提供	原料の提供者
地元農家	稻わら、もみ殻の運搬 野菜のツルの提供 中信木材センターへの搬入	原料の提供者 製品の購入者
あづみ森林組合	森林の主伐、間伐、搬出 里山の育成 間伐材のチップ化	原料の提供者 原料量の確保責任者
中信木材センター	中信地区の木材の集荷 曲がり材、木皮の販売	原料の集荷、貯蔵
地元輸送会社	間伐材、トマトのツルの収集 チップ材の輸送	原料の収集、運搬
ガス化コジエネレーション 事業者(第3セクター、PFI) (民間によるSPCも検討中)	木材の買取 ガス化コジエネレーションの実施 「ファインビュー室山」への電気、熱の供給	原料の買取 原料のチップ化 ガス化 電気、熱の供給
「ファインビュー室山」	電気、熱の受け取り	
三郷村役場	監督	自動車等のリース 各種自動車の運行
地元企業	燃料電池バスの運行試験	
地元企業	定置型燃料電池の実用化研究	
大学	バイオマス利活用型社会の研究 ガス化技術、燃料電池技術の研究	

## (ア)取組行程

堆肥化処理においては、現在堆肥化センターが稼動しているので、生ごみ、稻わら、もみ殻の搬入ルートを確立することにより、バイオマスの循環利用を図る。メタン発酵については、家畜排せつ物受け入れ量の増減や堆肥の製品販売量の増減、品質を勘案してメタ

ン発酵施設を建設するか否かを検討する。

ガス化プラントについては、間伐材やりんごの剪定枝等、未利用のバイオマス資源が既に発生しているため、緊急に対応する。

表7 スケジュール

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
堆肥化	ルート確立 			継続販売
			堆肥の販売	
メタン発酵施設			建設可否判定	
ガス化施設建設			着工 建設 	
水素ステーション建設				建設 
運転開始				
評価				技術、設備 
地元研究会				
住民説明				

#### (4) その他

安曇野みさと菜園（トマト栽培施設）において、暖房用ボイラーの燃料として使用しているLPGの代替燃料として間伐材によるチップボイラーを利用することや、現在処理の困っている、欠き取った腋芽や古葉などの堆肥化を今後検討する。

## 7 バイオマстаун構想の利活用目標及び実施により期待される効果

### (1) 利活用目標

現在の利活用率は、廃棄物系バイオマスでは、家畜排せつ物の利活用率が 61 % である。

そこで、今後は、廃棄物系バイオマスでは生ごみと家畜排せつ物の全量堆肥化、メタン発酵、りんごの剪定枝及び製材廃材の利活用を目指し、廃棄物系バイオマスの利活用率目標を 90 % 以上とする。更に、未利用バイオマスでは、間伐材、の利活用率を向上させ、トマトのツルおよび稻わら、穀殻を利活用することにより、利活用率目標を 50 % 以上とする。

平成 22 年度目標

(単位: t / 年、%)

種類	面積、頭数	有機物量		利活用率	利用方法
		発生量	内利活用量		
(廃棄物系バイオマス)					
生ごみ	17,819 人	784	630	80	堆肥化
家畜排せつ物	牛： 1,110 頭 豚： 10,100 頭	13,892	13,200	95	堆肥化 メタン発酵
りんごの剪定枝	452ha	1,500	1,200	80	ガス化
製材廃材		110	110	100	ガス化
小 計		16,286	15,140	93	
(未利用バイオマス)					
間伐材 (曲材、木皮)	1,498ha	1,000	750	75	ガス化
トマトのツル	4ha	480	480	100	ガス化
稻わら、もみ殼	1,228ha	5,256	2,300	44	堆肥化
小 計		6,736	3,530	52	
合 計		23,022	18,670	81	

## ( 2 ) 期待される効果

間伐材利用の促進と林業の活性化効果

「ファインビュー室山」の省エネルギー効果

農林業と新産業との融和による新産業創出と地域振興効果

　"　　による雇用効果促進

魅力的な町づくりと若者の定住、転入者増加効果の期待

観光促進効果

二酸化炭素排出抑制効果

## 8 対象地域における関係者を含めたこれまでの検討状況

平成16年度未活用バイオマスエネルギー実証試験事業調査の実施

・委員長 成蹊大学 教授 山田興一氏

・平成16年12月24日 第1回委員会開催

・平成17年1月26日 第2回 "

・平成17年3月3日 第3回 "

・平成17年5月 第4回 " 開催予定(自主開催)

「安曇野型森林水素社会研究会」(バイオマス利活用型水素社会研究会)の開催

・委員長 東京農業大学 教授 牛久保明邦氏

・平成16年12月3日 準備委員会開催、JHFCパーク視察

・平成17年2月17日 第1回研究会開催

・平成17年6~7月 第2回研究会開催(予定)

生ごみ堆肥化検討委員会の開催

・会長 山田文明氏

・平成16年1月29日 第1回委員会開催

・平成16年9月 3日 第13回委員会開催

・平成16年9月10日 提案書提出

## 9 地域のバイオマス賦存量及び現在の利用状況

表8 バイオマスの賦存量と現在の利用状況

	賦損量	変換処理方法	仕向量	利用・販売	利用率
(廃棄物系バイオマス)					
生ごみ	782t/年				0%
家畜排せつ物	13,892t/年	堆肥化処理	8,467t/ 年	農地還元	61%
りんごの剪定枝	1,500t/年	堆肥化処理	150t/年	農地還元	10%
製材廃材(木皮等)	110t/年				
(未利用バイオマス)					
間伐材	1,000t/年				0%
トマトのツル	480t/年				0%
稻わら、もみ殻	5,256t/年	堆肥化	405t/年	農地還元	8%

## 10 地域のこれまでのバイオマスの利活用の取組状況

### (1) 経緯

平成12年度に、三郷村堆肥センター「ユーキピアみさと」を建設し、畜産農家の経営継続のための条件整備を行い、同時に、堆肥を資源として活用しながら循環型農業を確立し、安全で付加価値の高い農畜産物の生産を通じて、畜産の振興及び農業の振興を図ってきている。家畜の排せつ物13,892t/年の内8,467t/年を受け入れ、5,156tの堆肥を生産しており利用率は61%となっている。

平成14年度に地域新エネルギービジョンを策定し、バイオマス資源の賦損量と利用方法について協議検討を行い、バイオマスエネルギー賦損量を把握した。

平成15年度に木質バイオマスエネルギービジョンを策定し、木質バイオマスの利用について、更に詳細に検討した。

平成16年度にバイオマス等未活用エネルギー実証試験事業・同調査事業を実施し、ガス化事業についてのFSを実施した。また、バイオマス等未活用エネルギー実証試験事業調査（新エネルギー・産業技術総合開発機構の共同研究）において、本村の木質系バイオマス既存量、収集ルート、バイオマスのガス化によるエネルギー利活用方法を調査検討した。さらに、生ゴミの堆肥化については、平成16年度に13回の検討委員会を開催し、提案書をとりまとめた。

## ( 2 ) 推進体制

生ごみの収集運搬、堆肥化の検討・推進のために「三郷村生ごみ堆肥化検討委員会」を組織し、生ごみ利活用の推進を図っている。

木質バイオマス資源の収集運搬を安定化させるために、「バイオマスコーディネートシステム」の組織化を検討している。

本村の循環型農業の確立を目的として、三郷村堆肥センター「ユーキピアみさと」を建設し、「三郷村農業振興公社」を組織して堆肥センターの運営管理を行っている。

## ( 3 ) 関連事業・計画

バイオマスの利活用事業を通じて、市民参加型のバイオマス循環社会を構築する。

また、バイオマスの堆肥化やメタン発酵、ガス化事業を通じて、村内の新規雇用を確保し、魅力ある村づくりを推進する。

バイオマスからメタンガスや水素ガスを製造し、CNG自動車、水素ガスエンジン自動車や燃料電池自動車、家庭用燃料電池等を導入し、新産業創出を図る。

また、それらの環境機器を通じて、地域の小学校、中学校への環境教育を実践する。

バイオマス資源の利活用技術を新しい産業へ結びつける新しいまち作りを率先する。

## ( 4 ) 既存施設

三郷村堆肥センター「ユーキピアみさと」(平成12年度建設)

1 建物面積 5,788.9 m<sup>2</sup>

原料搬入調整室 340.0 m<sup>2</sup>

一次発酵槽 1,350.0 m<sup>2</sup>

二次発酵槽 1,216.0 m<sup>2</sup>

熟成槽 560.0 m<sup>2</sup>

製品保管ヤード 467.3 m<sup>2</sup>

袋詰施設 112.0 m<sup>2</sup>

オガコ置場 178.0 m<sup>2</sup>

作業通路 1,492.6 m<sup>2</sup>

事務所 64.0 m<sup>2</sup>

2 予備乾燥施設 1,231.6 m<sup>2</sup> (三箇所)

3 オガコ乾燥施設 315.0 m<sup>2</sup>

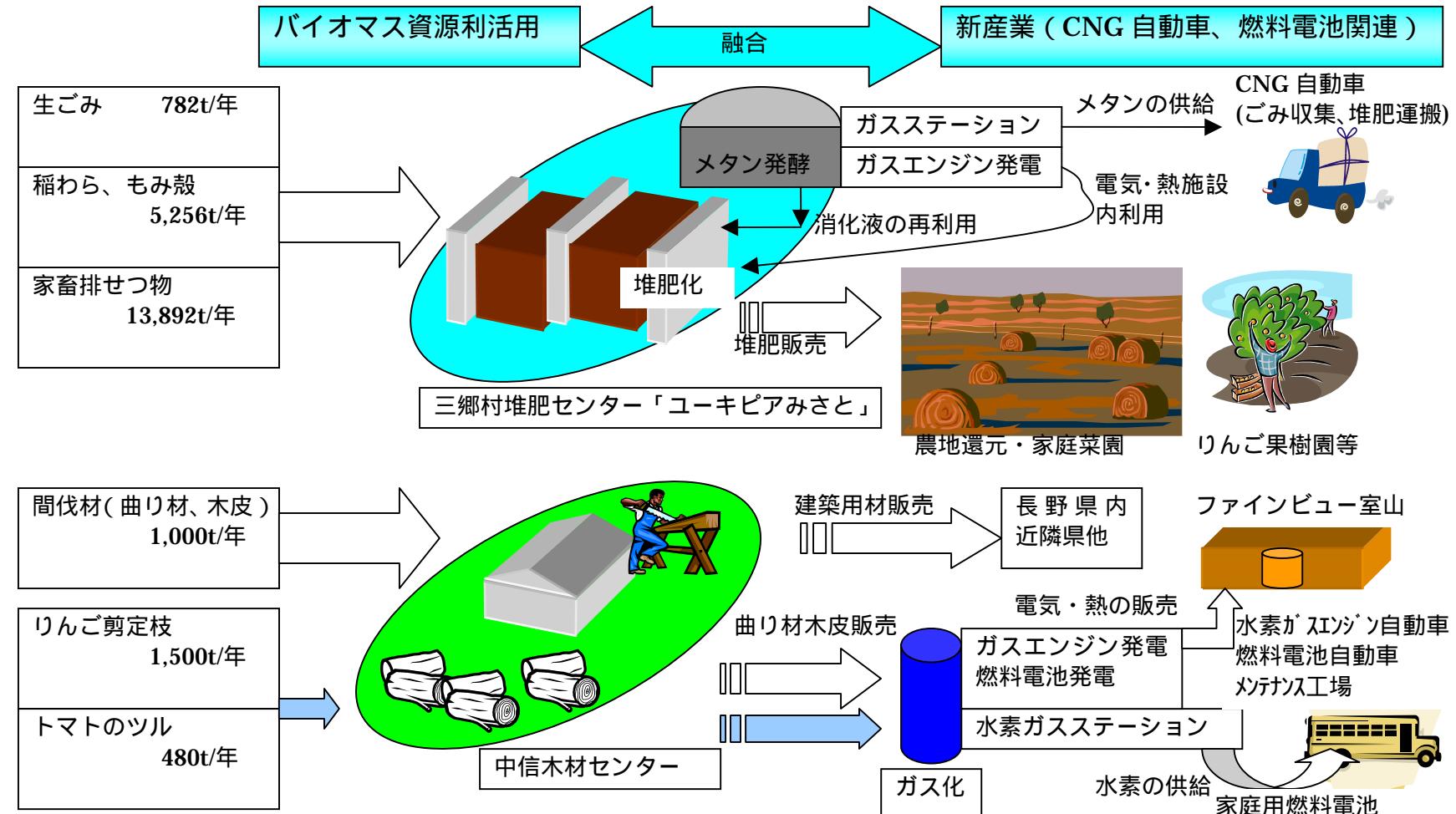
4 施設・機械・車両

脱臭設備	120 m <sup>2</sup>
オガコ乾燥施設	1台
ホイールローダー	3台
堆肥撒布車	2台
2トンダンプ	1台
フォークリフト	1台
5発 酵 方 式...	強制攪拌方式
6処 理 能 力...	70 t / 日
7堆 肥 生 産 量...	5,000 t / 年



## 三郷村バイオマстаун構想

## バイオマスによる未来の創造と挑戦



## 三郷村バイオマстаун構想 実施体制

